

保存版

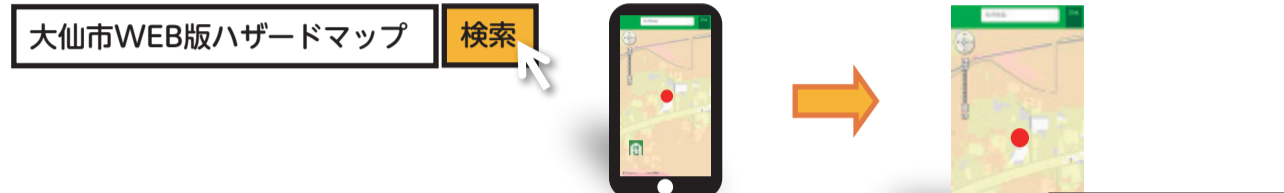
防災

ハザードマップ

大仙市
令和4年3月

WEB版ハザードマップを活用しよう!

スマホやパソコンからいつでもどこでも【より詳細な】ハザードマップが確認できます!



スマホのGPSを利用して自分の居場所を中心に表示可能!



PCからの閲覧では印刷機能を使い、自宅・学校・勤務先などを中心とした【自分だけのハザードマップ】が印刷出来ます!

大仙市役所【災害時対策本部】 0187-63-1111

- 神岡支所 0187-72-2111
- 西仙北支所 0187-75-1111
- 中仙支所 0187-56-2111
- 協和支所 018-892-2111
- 南外支所 0187-74-2111
- 仙北支所 0187-63-3003
- 太田支所 0187-88-1111

警戒レベルについて

行政機関から提供される警戒レベルについて確認しましょう。

□発令される避難情報等、国や都道府県から提供される防災気象情報には、以下のものがあります。*

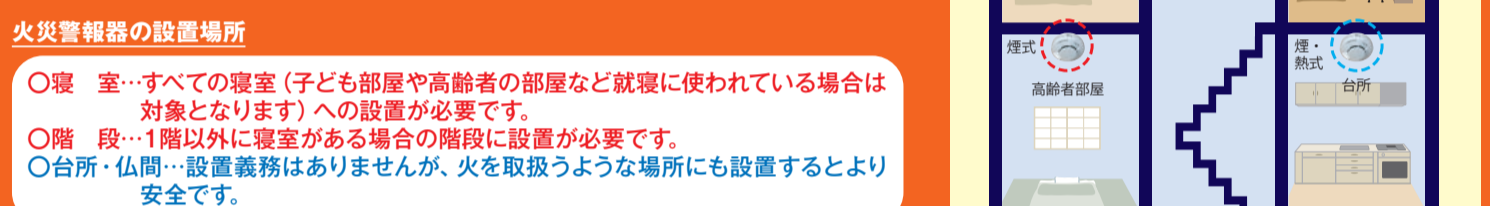
警戒レベル	状況	住民に求める行動	避難情報等	防災気象情報
5	災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保※2 市が発令	大雨特別警報 氾濫発生情報
<警戒レベル4までに必ず避難!>				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示 市が発令	土砂災害 警戒情報 氾濫危険情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※3	高齢者等避難 市が発令	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 気象庁が発表	
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 気象庁が発表	

- *1 必ずしもこの順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。
- *2 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベルは必ず発令されるものではありません。
- *3 警戒レベル3は、高齢者等以外の方も、必要に応じて普段の行動を見合わせたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

火災警報器の設置について

火災予防が一番!!

火災警報器の設置義務化
平成16年6月の消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。今後、更に高齢化が進む中で、火災による死者を無くすために必ず設置しましょう。ご不明な点は、消防署まで。



- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…2階以上に居室がある場合の階段に設置が必要です。
- 台所・仏間…設置義務はありませんが、火を取扱うような場所にも設置するとより安全です。

※注意:設置から10年が経過したものは、電池切れや電子部品が劣化していることがあるため、本体の交換をおすすめしています。また、いざという時に作動しなかったという事がないように定期的に点検しましょう。

地震対策について

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

- 地震発生**
 - とにかく自分の身を守ろう!
 - 地震だ! まず身の安全
 - 大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。
- 2~5分**
 - しっかり火の始末で、火災防止!
 - 大揺れがおさまった
 - 台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の際は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を締めましょう。
- 5~10分**
 - わが家の安全確認、確保!
 - 火の始末のあと
 - 家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。
- 10分~半日**
 - 隣近所の安全確認、助け合い!
 - 外に出たあと
 - 家の周囲の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力で行いましょう。
- 半日~3日**
 - 2,3日は自分でしのぐ!
 - 避難後、数日間
 - 地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気の供給が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようしておきましょう。



屋内にいた場合

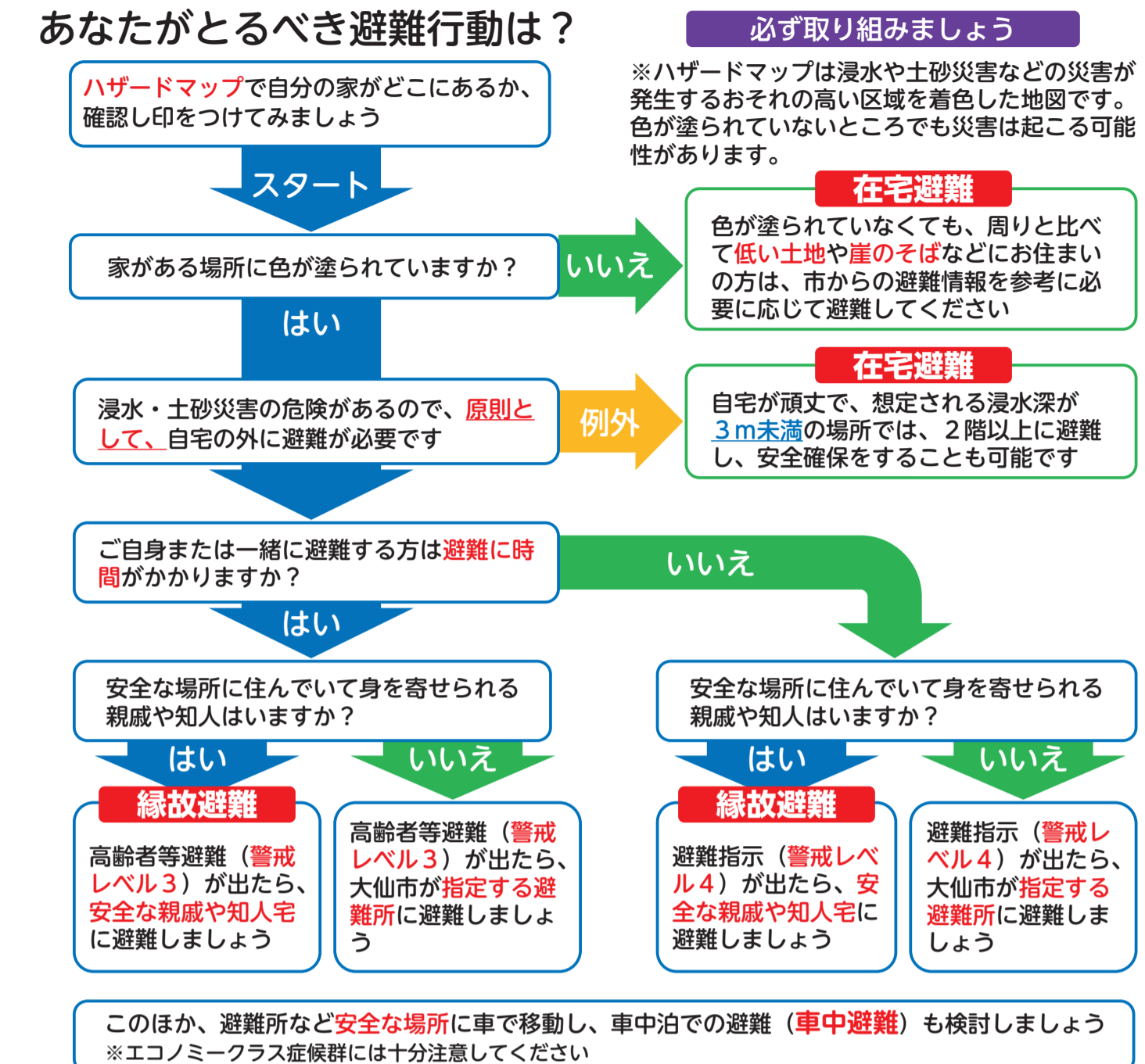
- 家中**
 - 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
 - 揺れがおさまったらからの確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
 - 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
 - 押定て歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。
- デパート・スーパー**
 - カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ちついた行動をとる。
- 集合住宅**
 - ドアや窓を開けて避難口を確認する。
 - 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。
- 劇場・ホール**
 - カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてず冷静な行動をとる。

屋外にいた場合

- 路上**
 - その場に立ち止まず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなど保護して、空き地や公園などの安全な場所に避難する。
 - 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全な高い場所へ移動する。
 - プロテクションや自動販売機などは近づかない。
 - 倒れそうな電柱や倒れかけた電線に注意する。
- 車を運転中**
 - ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の進行ペースを確保し、道路の左側へ止まり、エンジンを切る。
 - 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
 - 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。
- 海岸付近**
 - 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。
- 電車などの車内**
 - つり革や手すりに両手でしっかりとつかまる。
 - 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
 - 乗務員の指示に従って落ちついた行動をとる。

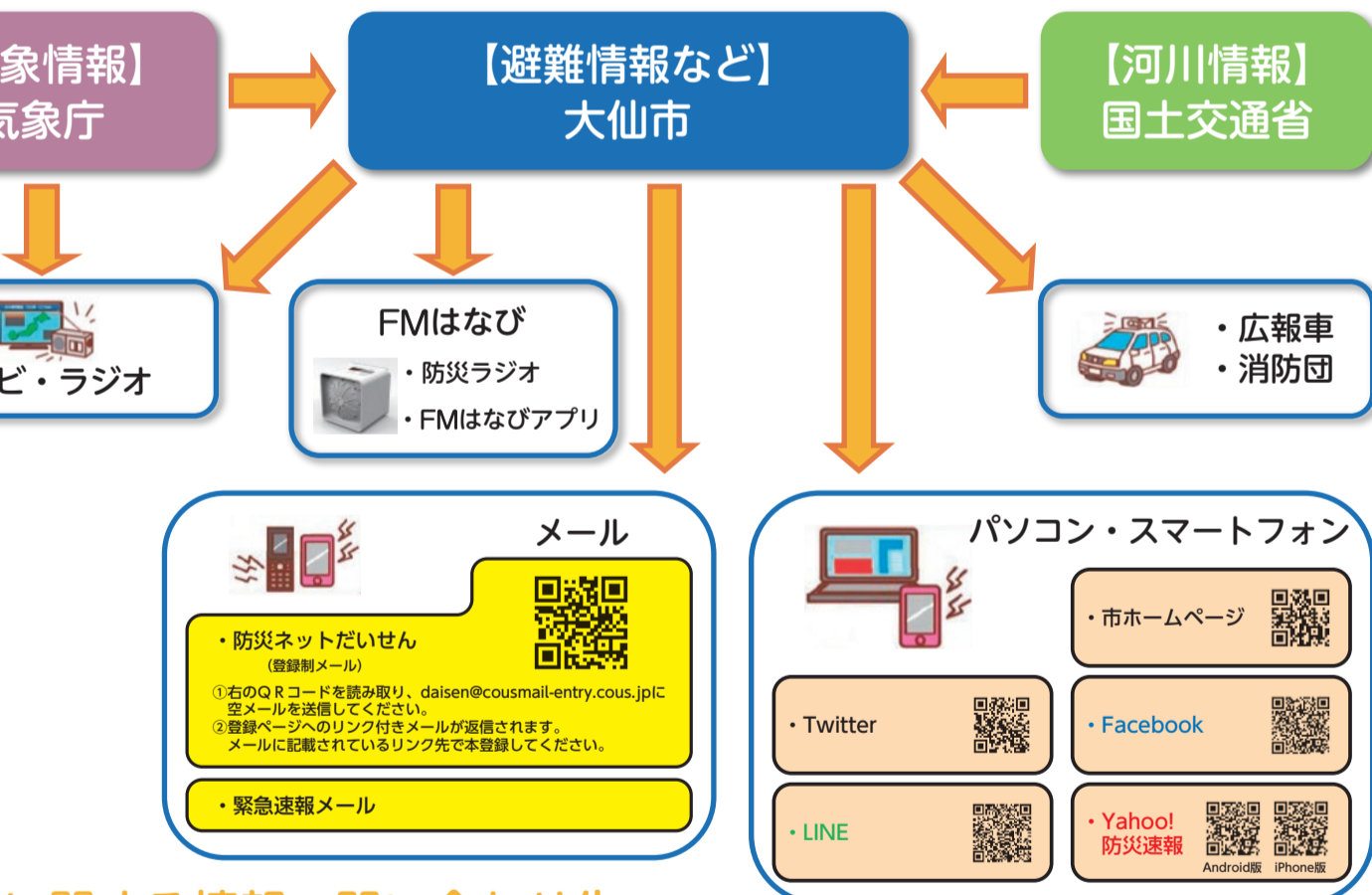
避難行動判定フロー

【平時に確認!】「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、とるべき行動の確認をしましょう



家族・自治会の集合場所	
家族との集合場所	自治会の集合場所
浸水災害時	浸水災害時
土砂災害時	土砂災害時
地震災害時	地震災害時

災害時の情報伝達について



停電に関する情報・問い合わせ先

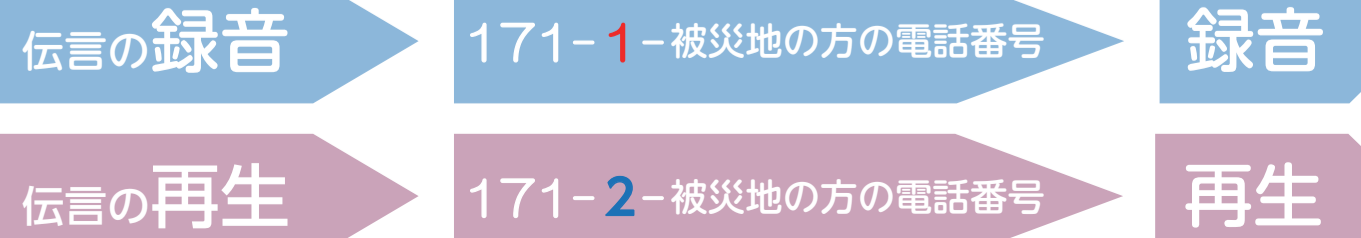
東北電力ネットワーク 停電情報アプリ



東北電力ネットワーク コールセンター 0120-175-366

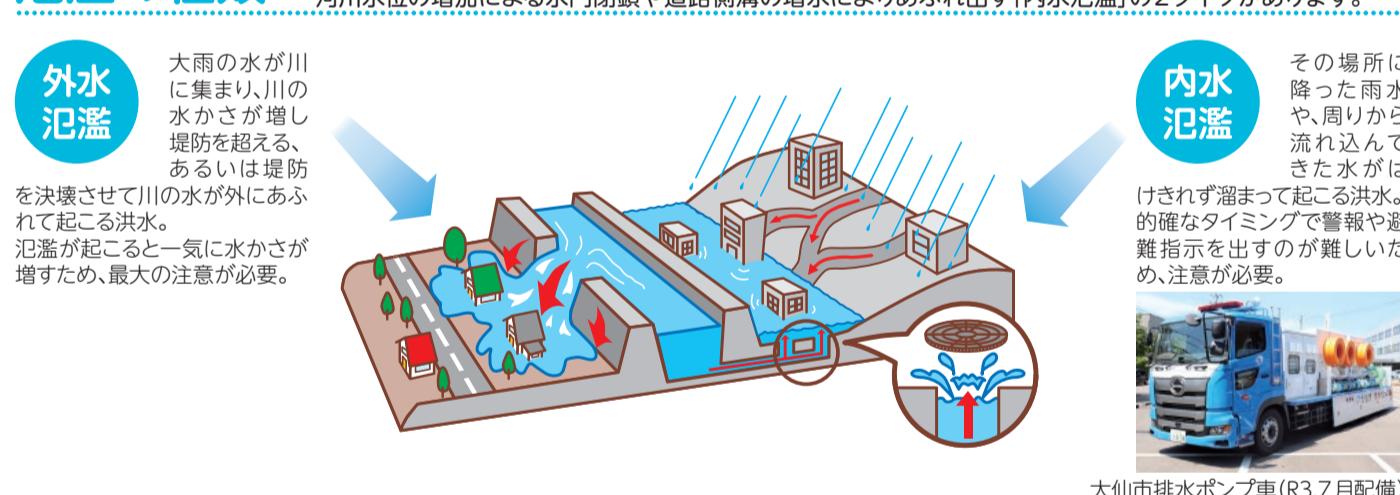
NTT災害用伝言ダイヤル171

災害発生時、電話が繋がりにくい状況になった場合に提供が開始される伝言板です。

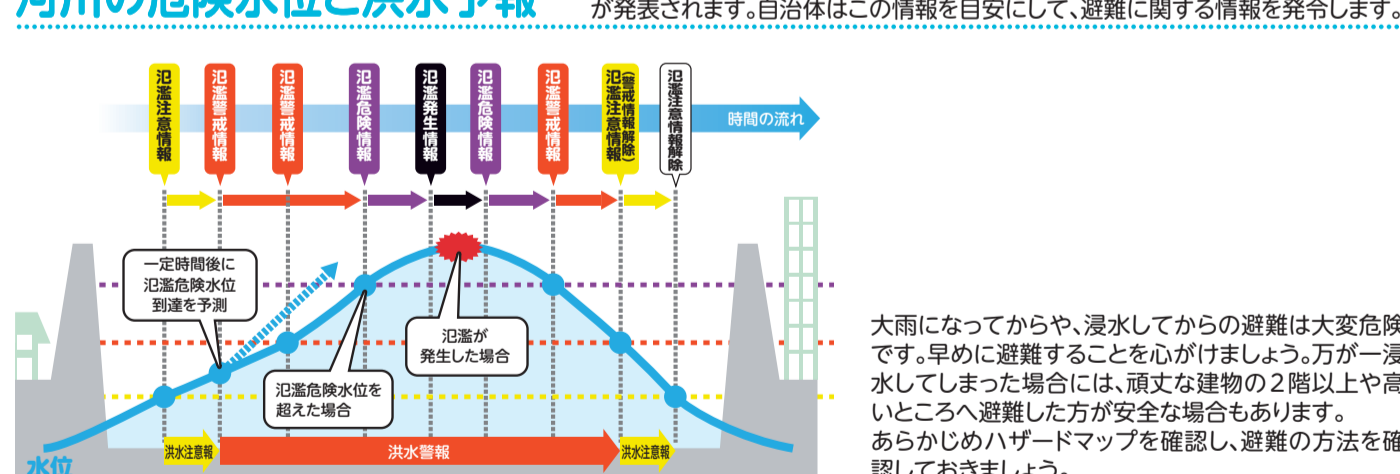


洪水・浸水害について

氾濫の種類



河川の危険水位と洪水予報

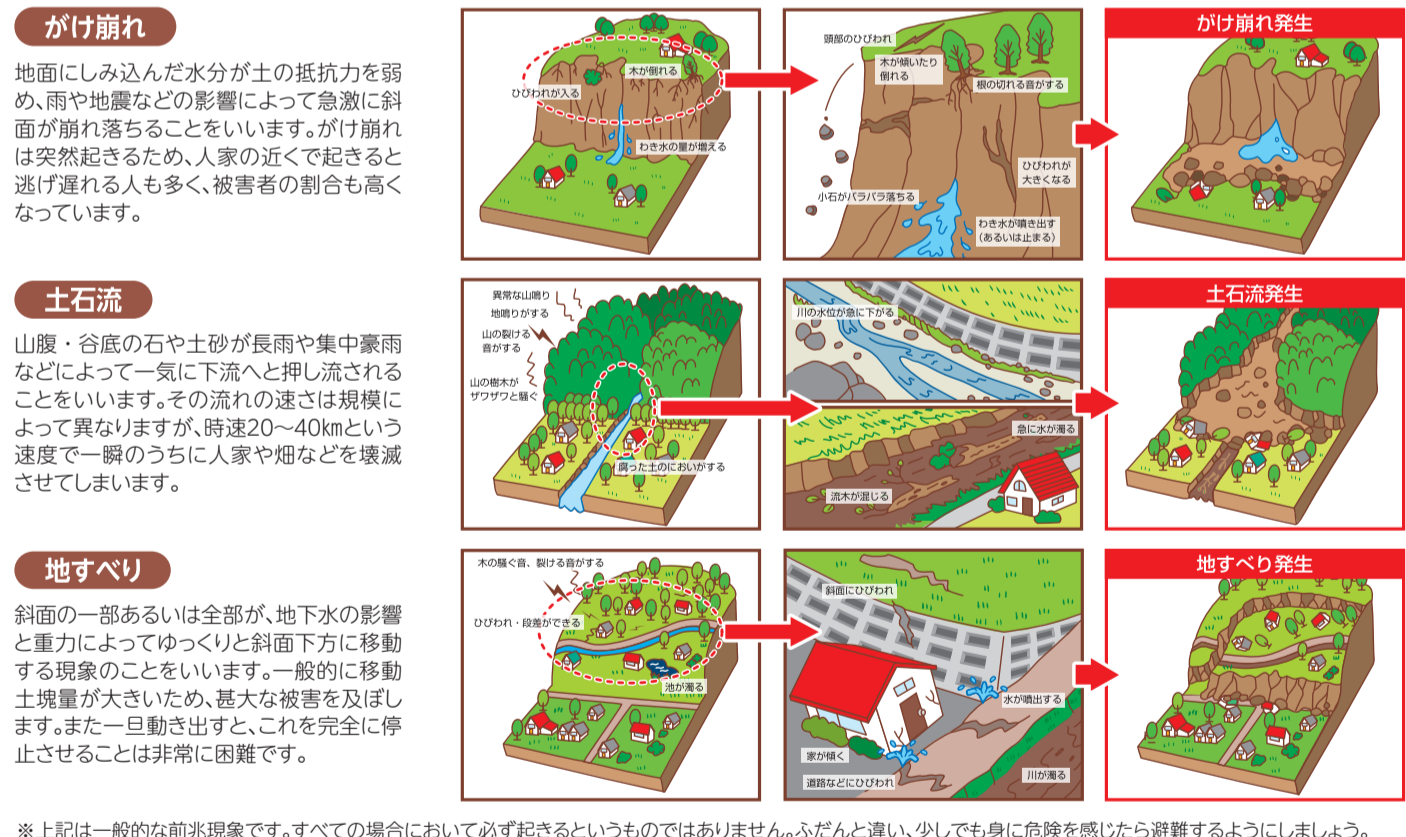


避難行動のポイント、危険な場所

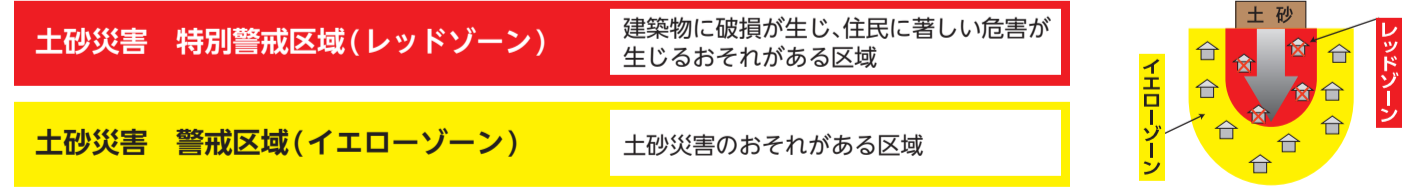
- 1 浸水が始まる前に早めの避難を**
氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。
- 2 状況に応じた避難を**
周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物の2階以上の階に避難する。移動途中でも、危険を感じたら、高い階に避難する。また、浸水が深くなると、電気の危険も高くなる。また、電線の断線も危険な場合がある。また、電線の断線も危険な場合がある。
- 3 やむを得ず浸水の中を歩く際は**
確認、長靴は履く。水中で倒れつらい靴などを脱いでいる。また、浸水は濁っているため、水面下を確認できない。長い棒などを杖代わりにし、橋脚やマンホール、障害物に注意する。
- 4 川や用水路に近づかない**
降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は行かない。やむを得ない場合は複数人で行動する。川の様子を確認は、自分自身の手で確認する。また、川のそばには、電線の断線も危険な場合がある。また、電線の断線も危険な場合がある。
- 5 地下室、地下街は危険**
地下にいる場合、地上の様子を把握しづらく、浸水が深くなると、一気に水が押し寄せ、逃げ場もなくなる。また、電線の断線も危険な場合がある。
- 6 アンダーパスは危険**
道路や橋の下をくぐるアンダーパスや地下道は、洪水が溜まり、浸水が深くなる。また、電線の断線も危険な場合がある。

土砂災害について

土砂災害の種類



土砂災害の警戒区域



避難行動のポイント

- 1 土砂災害警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「けの付」からは、いち早く避難する。
- 2 指定避難所までの移動が困難な際は、周辺の堅牢な建物の高層階へ避難する。
- 3 外出にも危険が伴う状況で、やむを得ず自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。

備蓄品および非常持ち出し品

避難するときに最初に持ち出すのが「非常持ち出し品」。災害直後から混乱が収まるまでの数日間、自給自足するための物資が「備蓄品」です。以下は一例です。とくに非常持ち出し品は、持って逃げられる量にしましょう。(男性15kg 女性10kgが目安)

- 非常持ち出し品**
 - 貴重品: 現金、公衆電話用硬貨も、印鑑、家や車の予備鍵、貴重品のコピー
 - 情報収集用品: 携帯ラジオ、携帯電話(スマートフォン)の充電器、モバイルバッテリー
 - 非常食: 非常食、軽く高カロリーのもの、飲料水、脱水菜、万能ナイフ
 - 衛生用品: 救急セット、常備薬も、マスク、消毒液、体温計、トイレシート、ウェットティッシュ、ビニール袋、下着類
 - 安全用品: 懐中電灯、予備電池も、ヘルメット、防災ずきん、軍手、スリッパ、防寒グッズ、マッパ、ライター、毛布、保温シート、使い捨てカイロ
- 備蓄品**
 - 飲料水: ※1人1日3L
 - 食品: ※アルファ米、長期保存食品など専用用品の他、下記ローリングストックの活用
 - 衛生用品: 洗面用品、トイレ用紙、ウェットティッシュ、ビニール袋、下着類
 - その他: ランタン、災害用トイレセット、からだし拭きシート、水のいらないシャンプー、ガステーブ、ビニールシート

上記リストを参考に、特に乳幼児用品、高齢者用品等、災害時に配慮すべき方の用品も、家族構成に合わせて追加しましょう。

定期的な点検を!

